

編集後記：千代田区にある科学技術館では毎週土曜日に「ユニバース」という科学ライブショーを開催し、子供から年配の方までを相手に研究者が科学の話題を1時間で解説しています。1回のショーは3～4本のコーナーで構成され、ドームスクリーンに星空を投影したり、太陽系のシミュレーションを用いて地球の自転・公転や日食を説明したりします。その1つに様々な分野の研究者をゲストとして招き、専門について10分ほど紹介してもらおうコーナーがあります。かれこれ10年以上前になりますが、当時そこでバイトをしていた大学生の私は、多くの研究に触れることのできるゲストのコーナーが毎回楽しみでした。

時は経ち研究者の道に進んだ私は、今度は自分がゲストとして台風の研究を紹介してみないかと誘われました。困ったことに私は他人の研究を聞くのは好きなのですが、自分の研究を紹介するのは苦手でした。5年ほど前から年1回のペースで挑戦しているのですが、最初の2～3回は話題の選び方も専門知識の盛り込み方もわからず、飽きた子供が途中で帰ってしまうという寂しいこともありました。

それでもめげずに毎年挑戦を重ねていると、小学生

にも興味を持ってもらえる話題や紹介方法も少しずつつかめてきました。後から考えると大層なことでは無いのですが、北半球と南半球とで低気圧の回転が逆向きであるという違いを見つけるクイズを出したり、その違いが地球の自転と関係していることを前述の太陽系のシミュレーションと組み合わせで説明したりすると、かなり興味を持ってもらえるようになりました。

この機会によって、自分がなぜ科学に興味を持つようになったのかを振り返ることができたと同時に、科学に興味を持たせてくれた方たちの努力や工夫に改めて気づかされました。「天気」の記事などを通じて、教育やアウトリーチにおける工夫をもっと学び、子供にも気象学の面白さを共有してもらえるような紹介ができるようになりたいです。

最近、小学校で教えている知り合いから「キャラクターを登場させると子供は興味を持つよ」というアドバイスをもらいました。なるほどと思う一方で、キャラクター無しでも面白いと思ってもらえる紹介をしたい、という意地も働いてしまいます。試行錯誤は続きます。

(柳瀬 亘)